

国際協力 I

地域開発の課題とあり方

日時：平成23年9月18日（日） 10:00～15:00

講師：高井 克明（国際連合地域開発センター研修部長）

概況



◎地域開発の課題とあり方

1. 国連地域開発センター(UNCRD)

UNCRD は、開発途上国の「地域開発」を専門に調査・研修を行う組織として、名古屋市に設立された。名古屋は、バランスのとれた開発が中央政府主導でなく地域が主体となって実施された場所であり、開発途上国の研修生に日本の経済発展の経験を学んでもらうのに最適の場所。

「開発途上国における地域開発計画の策定と計画実施能力の強化」を目的とし、「持続可能な地域開発」という概念の具体化を目指して「環境」「人間の安全保障」「防災」の3つの視点から、研修、調査研究、助言、情報ネットワークの確立等の活動を行っている。

2. 地域開発の課題とあり方

・持続可能な開発

持続可能な開発とは、将来の世代が自らの欲求を充足する能力を損なうことなく現在世代の欲求を満たすことであり、環境面のみではなく経済的、財政的、社会的な面からも検討されるべき。

・MDGs ミレニアム開発目標

ミレニアム宣言：公正で持続的な世界平和を構築するために、「①平和・安全保障及び軍縮、②開発及び貧困撲滅、③共有する環境の保護、④人権、民主主義及びグ

ッド・ガバナンス、⑤弱者の保護、⑥アフリカの特別なニーズへの対応、⑦国連の強化」の7つのテーマに関して、国際社会が連携・協議していくことを合意。

MDGs: 貧困削減、教育、保健医療、ジェンダー、環境等について8つの目標(MDGs)、18のターゲット、48の指標から構成され、国際社会が共有すべき重要な目標として、明確な数値目標と2015年という達成期限を定めた。

・貧困等の原因

恐怖(紛争・病気等)と欠乏(低所得など)から貧困は生まれる。

・発展と開発

発展＝自ら状況をよくすること。開発＝他に影響を与えて発展させること。国際社会は、途上国の貧困削減・生活水準の向上を図るための支援(地域開発)を行う必要がある。

3. 内発的地域開発アプローチ

内発的地域開発とは、各地域固有の資源をベースとして、それぞれの地域の固有伝統、文化、培われた技術に基づきつつ、地域の人々の主導により進められる開発のパターンをさす。

◎グループワーク

対象国が貧困削減や生活水準の向上を図るために何をすればよいか？国際社会や日本はどのような支援ができるか？あなた自身に何ができそうか？という課題に対して、グループごとにSWOT分析を行い、考えをまとめ、発表した。